

いよいよ“新しい道徳”が始まります!

# どうとくのち

創刊号  
第1号

2018年春号



[特集] データ分析

## データから考える道徳

この機関誌は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則っています。

東京書籍

# CONTENTS

【どうとくのわ】2018年春号

3

## 特集 データから考える 道徳

茨城大学教授 小川哲哉

### 「データ分析」

- 3 テーマ1 いじめの状況 茨城県銚田市立諏訪小学校教諭 庄司貞夫
- 4 テーマ2 自己肯定感の状況 茨城県銚田市立諏訪小学校教諭 庄司貞夫
- 5 テーマ3 コミュニケーション力の状況 茨城県つくば市立百合ヶ丘学園筑波西中学校教頭 沼田義博
- 6 テーマ4 キャリア教育 (将来に対する意識)の状況 茨城大学教授 小川哲哉

### こうすればできる道徳授業

#### 中学校

- 8 テーマ1の授業提案 北海道大学非常勤講師 日下部憲一
- 10 テーマ2の授業提案 北海道札幌市立北野中学校教諭 喜田貴美枝

### 考え、議論する道徳授業

#### 小学校

- 12 グループ活動を取り入れた問題解決的な学習 明星大学准教授 小林幹夫
- 14 実践事例 具体的な教材による授業展開例 明星大学准教授 小林幹夫



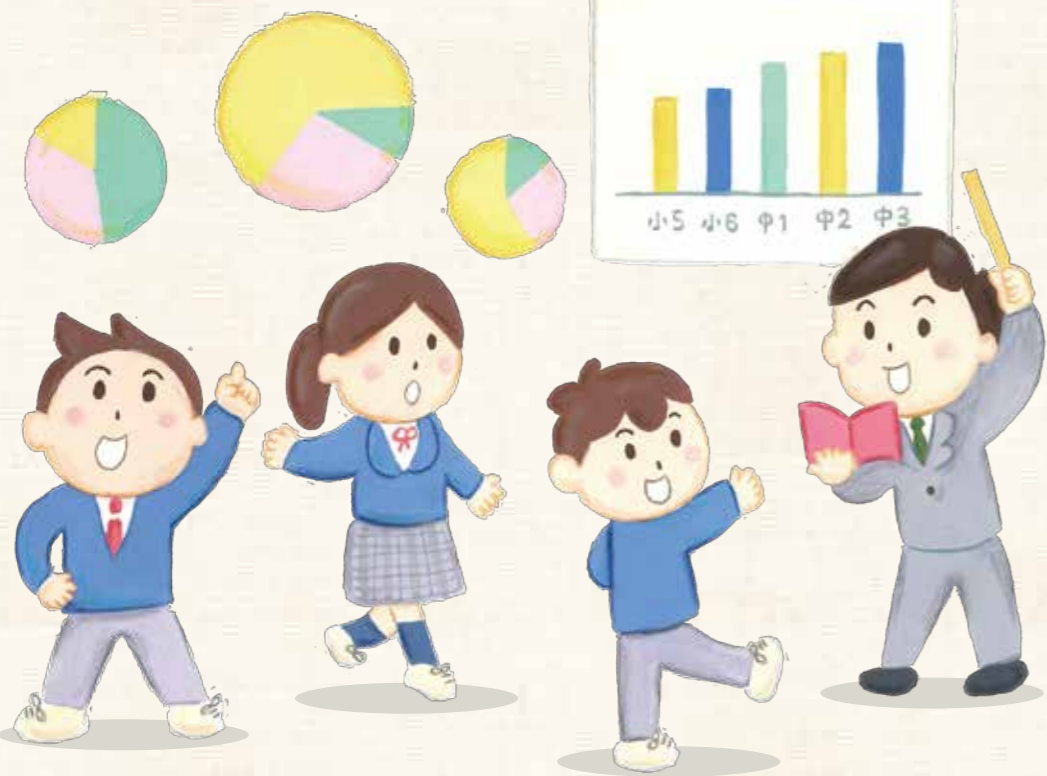
編集：東京書籍 編集部 道徳編集部  
編集協力：株式会社エディット  
デザイン：クオルデザイン(坂本真一郎)  
イラスト：サカモトアキコ

# 特集 データから考える 道徳

「今の中学生たちが、どのような気持ちでいて、どのような状況に追い込まれているのか」を知ることは、教師にとって重要です。特に二〇一九年四月から中学校で始まる「特別の教科 道徳」(以下、道徳科)の授業を行う際には、今の中学生たちが置かれている状況を客観的に理解した上で、彼らに対して何ができるのかを考えることは、道徳科の大切な課題ではないでしょうか。

東京書籍のi-checkは、「確かな学力」や「豊かな人間性」を育ませる学校生活のための総合質問紙調査であり、これまでにない多様な多面的な観点から、教師の生徒理解や学級経営の参考となる基礎データになり得るもので、非常に広範囲で正確なデータといえます。

一般的には、こうした数量化されたデータを通して道徳教育を見ていこうとすると、道徳性の数量化を図ろうとするのではないかと誤解を招くことがありますが、i-checkは、道徳教育実践を数量的に分析するものでも、評価するものでもありません。目的は



あくまでも教師が生徒の状況を把握したり、学級経営を行う際の客観的な判断材料にしたりすることです。こうしたことを前提として、学級や生徒の状況を把握する基礎データとして活用すると、道徳の授業、つくり役に役立つことが多いと思います。

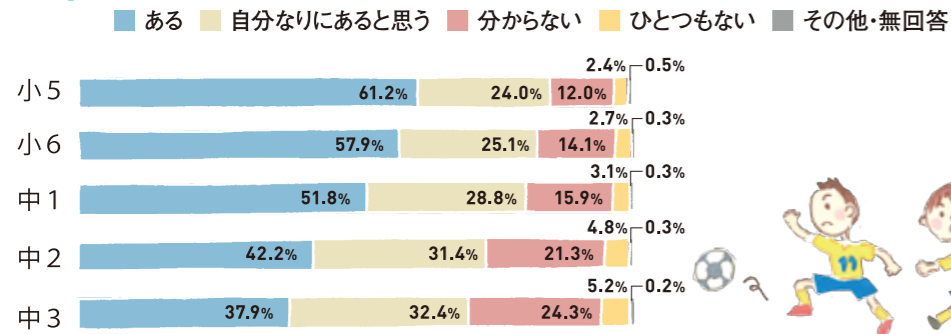
今回の企画では、i-checkの膨大なデータの中から次の四つのポイント、①いじめの状況、②自己肯定感の状況、③コミュニケーション力の状況、④キャリア教育(将来に対する意識)の状況についての分析を行いました。

いじめ関係のデータでは、教師や学校の喫緊の課題が明らかにされています。特に初期のいじめのデータは興味深いものがあります。自己認識に関しては、今の中学生の自己肯定感の状況が浮き彫りにされています。キャリア教育に関しては、夢や目標をすぐにあきらめてしまう今の生徒たちの姿が表れているように思います。さらにコミュニケーション力などに関しては、自分の考えを積極的に発言しない(できない)今の生徒の状況が明らかで、考え議論する道徳授業の必要性を示す貴重なデータとなっています。

こうしたデータから生徒たちの一般的な傾向性を読み取った結果を、個々の学校における道徳教育の重点項目作成の参考にして、それに基づいた年間指導計画の策定に役立ててください。

ただ、こうしたデータはあくまでも今の中学生の平均的な姿を示しているに過ぎません。個々の学校や学級の生徒たちの状況把握は、教師が普段から接しながら培われていく経験に勝るものでないことは明らかです。i-checkによる客観的な把握と、個々の教師の生徒理解をうまく組み合わせることによって、学級経営の向上と生徒理解を図り、よりよい道徳の授業が行われることを期待しています。

## Q 勉強や運動、クラブ、習い事、しゅみなどで、自分なりに自信をもっていることがありますか。



出典：平成28年度 i-check全国集計値



右記のことも含めて、自分にはいいところがあると答える児童・生徒の割合も、学年が上がるにつれて概ね減少する傾向にあります。もちろん、外国人と比べて「謙虚さ」を学び、身につけていくという日本人の特徴も内在しているため、一概に自己肯定感が低いということではでき

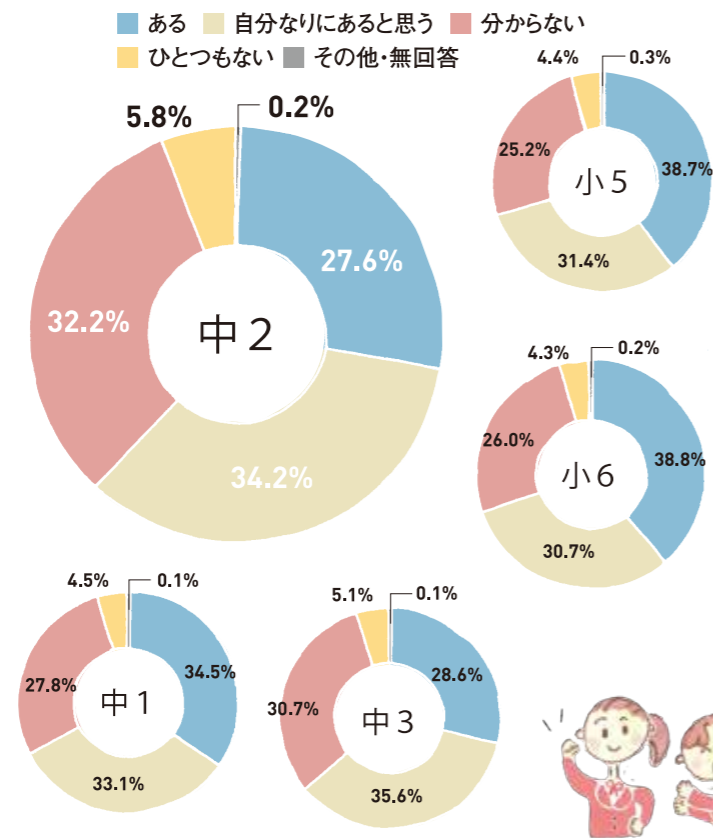
### 誰でもいいところがある

自己肯定感についてのグラフを見ると、勉強や運動において自分に自信があると回答している児童・生徒は学年が上がるにつれて減少し、逆に、「分からない」や「ひとつもない」と回答している児童・生徒が増加傾向にあります。これは、成長に伴って周りの友達と自分を比較する機会が増え、より勉強ができる友達や、より運動ができる友達を意識しすぎることが要因であると考えられます。

### 学年による状況の違い

# 2 自己肯定感の状況

## Q 自分には、いいところがあると思いますか。(思いやり、明るさ、まとめる力、ひょうきんさ、責任感、努力、など)

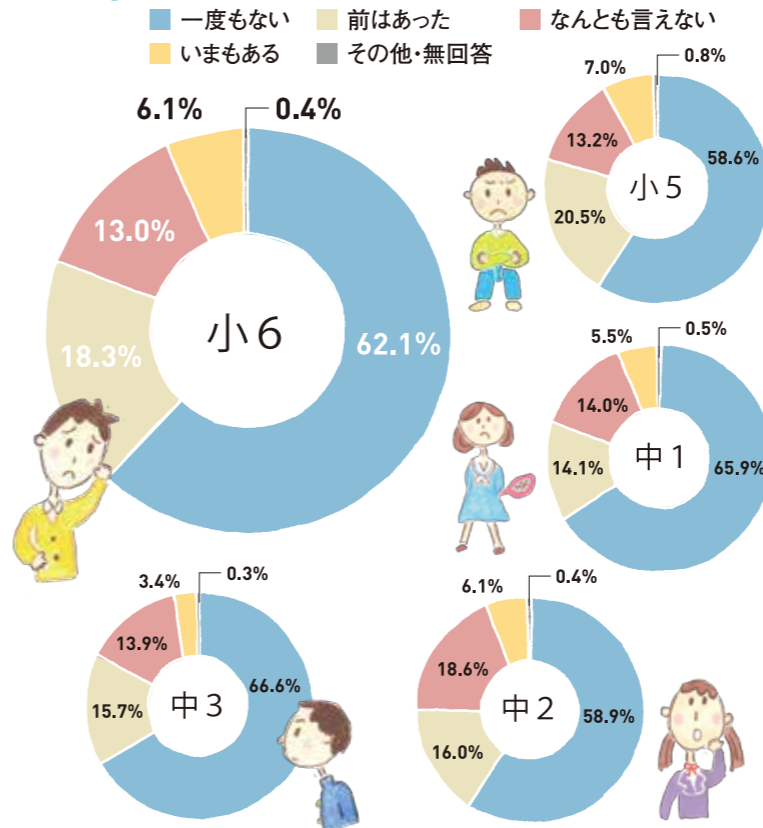


出典：平成28年度 i-check全国集計値

せん。しかし、自己肯定感とは学力との相関関係があるという説もあり、やはり自分の良さを見つけて自信をもつことが大事なことであるのは間違いありません。必要以上に自分に長所はないと思っている児童・生徒に対して、長所と短所は

表裏一体であるため、見方を変えたと短所も長所になることや、スポーツや勉強だけでなく、多様な尺度で見ると、誰にでもいいところがあるということを、道徳教育を通して児童・生徒に伝えていきたいと思っています。

## Q クラスや部活で、冷やかされたり、からかわれたり、いやなことをしつこく言われたりすることがありますか。



出典：平成28年度 i-check全国集計値



初期のいじめ(からかい、悪口、無視など)のデータから、初期のいじめを受けたことがある児童・生徒が約37%の割合で存在することが分かります。一方で、「いじめは一度もない」と答えた児童・生徒が約62%の割合で存在するというデータもあります。つまり、クラスの3割が

### 初期のいじめ

いじめられているが6割は気づいていないということです。

# 1 いじめの状況



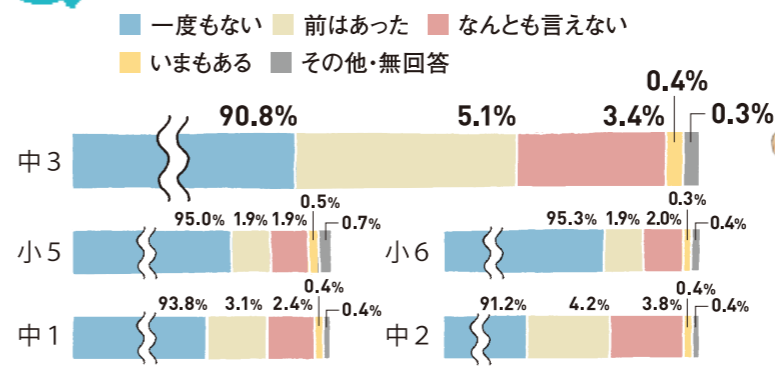
### 教師の目の届かないいじめの温床

また、小・中学生のスマートフォンなどの所持率が急激に増えている現在、それに伴いSNS上でのトラブルも増えています。教師の目の届かないところがいじめの温床となることが懸念されます。

このことから、「いじめの認識の低さ」と「傍観者」の問題が考えられます。確かに、どこからがいじめで、どこまでがいじめではないという明確な線引きがない以上、見て見ぬふりをしてしまうと決めるわけにはいかないかもしれません。しかし、「気づかない」ことが、いじめをエスカレートさせる一因であることは間違いありません。

上のグラフは、冷やかしゃ、からかいといった、いじめとしては初期の段階のものを表していますが、エスカレートすると物品・金銭の要求といった事態になり、数値としては約6%の児童・生徒が被害にあったことがあるというデータもあります。この数字も重く受け止めなければなりません。

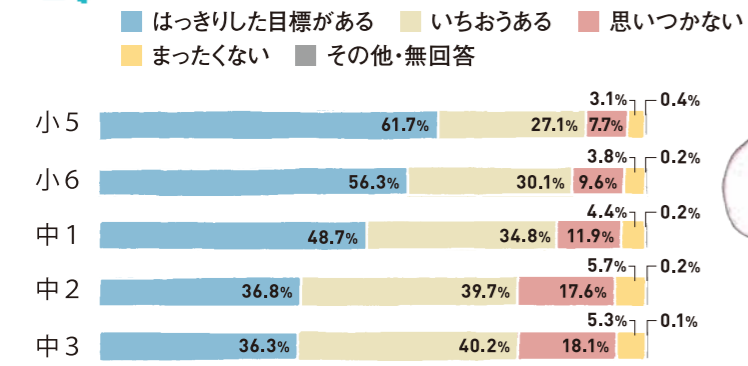
## Q LINEやツイッター上で仲間はずれにされたり、ひどいことを書かれたりして、傷ついたことがありますか。



出典：平成28年度 i-check全国集計値



**Q** 将来、あんな人になりたい、こんな事がしたい、こんな仕事につきたいという、夢や目標がありますか。



出典：平成28年度 i-check全国集計値

特に中学生の頃は、理想と現実の矛盾を感じ始める時期です。しかも最近の子供たちは、すぐに結果が出ないと夢や希望をあきらめてしまう傾向があるように思います。それには時代状況も大きく影響しているのでしょう。物があり余っている現代社会では、自分が望むものはネットを通じてすぐに手に入るし、辛抱や我慢をしなくても欲しいものを入手できます。そのため、人生をかけても何かを獲得しようとする意識をもつ機会が少なくなっている

「無理ならこうしてみたら」「こんな方法もあるよ」と、人生の困難を乗り越えるための様々なアドバイスをしています。「『どうせ無理』と思っている君へ本当の自信の増やし方」 P H P 研究所、二〇一七年。こうしたエピソードを、道徳の

授業で取り上げてみてはどうでしょうか。中学生たちが現実を見据えながらも、夢や希望をもち続けることの大切さを、教師も彼らとともに考えることは、これからの道徳教育にとって大切です。同時にそれは、中学生のキャリア教育のあり方にも関わる重要な教育課題ではないでしょうか。



### 夢や希望をもち続けることの大切さ

グラフから分かるように、小学生の頃は肯定的な回答率が高いのですが、学年が上がるにつれてその割合が下がっていき、中学生では、さらに下がり方が大きくなります。これは、中学生にもなると現実を直視するようになり、実現できずともない夢や希望にいつまでも執着しようとしなくなるこの表れと考えられな

## 4 キャリア教育（将来に対する意識）の状況

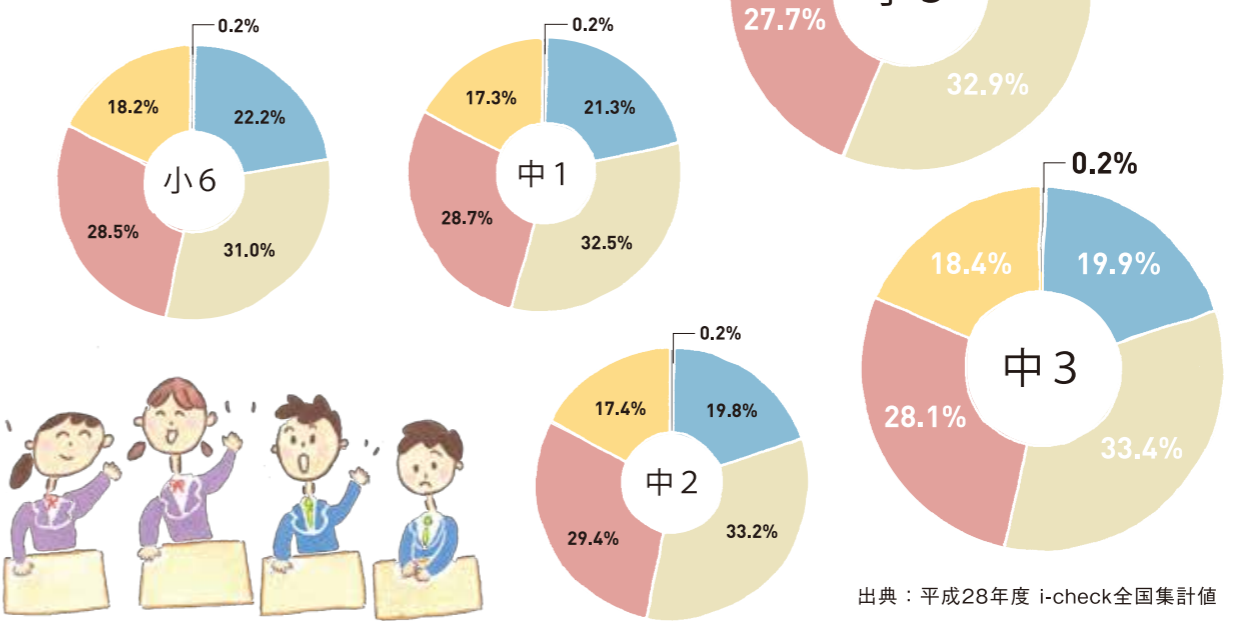
のではないのでしょうか。

しかし、グラフのように中学生の約75%が、何らかの夢や目標があると回答している点に注目してください。学年が上がるにつれて肯定的な回答の割合が減少していくとはいえ、実際には多くの中学生たちが、夢や目標をもちているのです。教師は、彼らの気持ちを大切にしてください。

実は、大人になっても、現実を見据えながら夢をあきらめない人々は数多くいます。「下町ロケット」で話題になった植松努氏のエピソードはどうでしょうか。下町の民間企業が宇宙開発に乗り出し、今やNASAも注目する事業を進めている植松氏は、数々の著作の中で子供たちに、「どうせ無理だと思っている君へ」と語りかけます。「どうしてあきらめるの」「無理ならこうしてみたら」「こんな方法もあるよ」と、人生の困難を乗り越えるための様々なアドバイスをしています

**Q** クラスや友だちの間で、話し合いをするとき、自分の意見を積極的に発言する方ですか。

よく発言する方、ときどき、たまに、ほとんど発言しない、その他・無回答



出典：平成28年度 i-check全国集計値

### 積極派予備軍を仲間

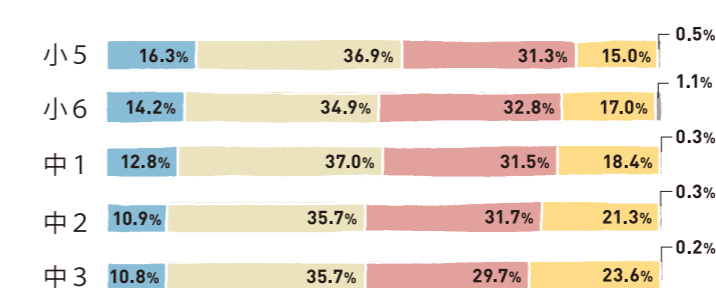
上のグラフは、道徳の教科化に向けた授業改善の視点を焦点化する上で、非常に興味深いデータです。なぜなら、半数以上の児童・生徒が発言積極派であるからです。「たまに」と答えた約3割の積極派予備軍を授業の序盤で仲間に加えれば、発言積極派は8割を超えます。教科化に向けた授業改善のポイントの一つはここにあります。本時で扱う価値の揺らぎを突き、思考の必要感をあおり、「話し合いたい」と感じさせる導入の工夫を行うことが肝要です。

また、下のグラフは、心の成長のプロセスを示す貴重なデータです。学年が上がるにつれ「提案できる」児童・生徒の割合が下がっていますが、これはいわゆる付度と考えられます。学年が上がって相手の生き方や背景に思いを巡らせるようになると、迂闊に「みんなのため」などと提案できない場面は増えていくのかもしれない。

中学校の道徳では、価値に内在する本質を理解した上で、自分の生き方として納得できる答えを見つけさせたいものです。教材からは読み取れない主人公の生き方を問う発問を工夫することで、積極的な発言を促すよう工夫を。

**Q** クラスの話し合いや友だちとの間で意見が合わなかったとき、みんなが納得できる方法を考えて、提案する方ですか。

よく提案する方、まあまあ提案する、思いついても発言できない、人の考えを聞いている方、その他・無回答



出典：平成28年度 i-check全国集計値



# 3 コミュニケーション力の状況

# テーマ1の授業提案

## 読み物教材と学習指導案

授業を行うには、教師の指導の思いや構想が盛り込まれた学習指導案の作成が必須です。形式に決まった基準はありません。「指導略案」として次のような内容が一般的です。

- **主題名** いわゆる学習テーマです。
- **ねらい** 指導案の柱。明確にして授業に臨みます。
- **教材名** 出典を明らかにします。
- **学習指導過程** 導入、展開、終末の各段階に区分し、学習活動、発問と予想される生徒の反応などで構成されることが多い。

中学道徳「明日をひらく3」（東京書籍）に掲載され、いじめ問題を取り扱った「卒業文集最後の二行」を例に指導案づくりを進めていきましょう。

## 教科化と子供の現状

中学校「特別の教科 道徳」は平成31年度より全面实施。各学校では道徳科の推進体制や指導方法、評価等の研究・研修活動が盛んに行われています。また、i-checkのデータから、いじめ問題や自己肯定感、将来を切りひらく意識などにおいて、子供たちが抱える課題が浮き彫りになっていきます。その課題と向き合う授業づくりが求められます。

## 授業で心がけたいこと

授業では教師が読み物教材を範読することが原則です。安易に生徒に読ませるべきではありません。そして、中心発問に時間をかけます。15～20分は必要です。基本発問はあくまでも内容の理解や、中心発問をより答えやすくするためのものです。「自我関与」（登場人物になりきってじっくり考える）の発問を構成し、生き方についての考えを深めます。



## 教材の吟味と中心発問の検討

授業の一つの柱は中心発問です。本教材では、作者がT子さんの作文を読み、まкруをぬらす場面に注目します。作者がいじめを反省し、今までの生き方や考え方が道徳的に変化する場面です。そこに中心発問を設定するのがポイントです。また、「問い返し」の発問を準備し、道徳的価値への理解、生徒との対話・交流を深めることも大切です。



主題名：いじめのない社会

### ねらい

作者の小学生時代のいじめを今も後悔している体験を通して、誰に対しても公平に接し、差別や偏見を憎み、いじめのない社会を実現しようとする道徳的態度を育てる。

### 教材名

『卒業文集最後の二行』（中学道徳「明日をひらく3」東京書籍 作者：一戸冬彦）

### 内容項目

C-(11) 公正、公平、社会正義

## 指導案作成の手順

### ●教材の精読と含まれる道徳的価値の把握

本教材は、一読していじめに関わる内容と理解できます。内容項目はC-(11)「公正、公平、社会正義」とします。

### ●主題名を検討

主題名は、授業の学習テーマ。キーワードとして「いじめ」の文言を入れ、生徒の主題に向き合う意識を高めましょう。

### ●ねらいを検討

ねらいは、学習指導要領解説の内容項目の文章を引き出しながら作成するのがポイント。語尾に道徳の諸様相を入れます。



## 学習活動

## 主な発問と予想される生徒の反応

### 導入 10分

- いじめとはどのようなことかを発表する。  
※あまり時間をかけない。

### 教材を読む（範読）

- T子さんをいじめたり、カンニングの不正を隠して責めたりする作者の気持ちを考える。  
※作者のT子さんへの身勝手さや悪いと分かっているが周りの雰囲気に流される作者の気持ちをおさえたい。
- 作者の涙について考える。  
※T子さんの悲しさ、心の痛みを共感させる。
- 作者が手記を書いたときの気持ちを考える。  
※自我関与の発問を通して自分の問題として考えさせる。
- 作者の涙について考える。  
※T子さんの悲しさ、心の痛みを共感させる。

### 終末 10分

- 今日の授業の感想を書く。  
※何人かに発表させ、教師の説話で終える。

**「卒業文集最後の二行」のあらすじ**

私には、小学校時代の悔しい出来事がある。隣の席にいた同級生のT子さんをいじめたことである。私は執ようにいじめたが、彼女はじっと堪えていた。

ある日、漢字の小テストがあった。私は隣の席の彼女の正答をカンニングした。答案用紙が返却され、私は満点で彼女は98点だった。クラスの悪童たちは、彼女がカンニングをしたと中傷し、私もその尻馬に乗ってしまふ。彼女は泣きながら「答えは見て

いません。着ているものはきたないかもしれないけれど、心はきたなくないです。」と言って、教室を飛び出してしまう。

やがて卒業式を迎え、その日に配られた「卒業文集」の彼女の作文の最後の二行を読み私は思わず涙する。そこには「私が今いちばんほしいのは母でもなく、ほんとうのお友達です。そして、きれいな洋服です。」と、彼女の思いの全てが込められていた。

作者は、どのような気持ちでこの手記を書いたのか。

作者は、どのような気持ちでこの手記を書いたのか。

作者は、どのような気持ちでこの手記を書いたのか。

作者は、どのような気持ちでこの手記を書いたのか。

作者は、どのような気持ちでこの手記を書いたのか。

作者は、どのような気持ちでこの手記を書いたのか。



# テーマ2の授業提案

## 指導と評価の一体化

中学校における道徳科の全面実施に向けて、多くの関心が向けられていることは、多くの先生に評価をしてくべきか。」です。評価には、授業の成果と改善点を明らかにし次の授業に生かすことを目的とした教師側の評価と、生徒の「学習状況と道徳性に係る成長」を大きく見取る「生徒側の評価」の二つの側面があります。どちらにしても、評価とは、指導がねらいに迫れているかを見取っていくものです。

指導者は「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ」「道徳的諸価値についての理解を基に、物事を広い視野から多面的・多角的に考える」、生徒の学習状況を見取ります。つまり、「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ」多面的・多角的に考える」授業であれば、評価の見取りができません。以上のことを踏まえて「ネット将棋」『私たちの道徳』文部科学省 を使用した実践を紹介します。

## 確かな指導観に基づく授業構想

授業を構想する際に、指導観となる「価値観」「生徒観」「教材観」を指導者が明確にすることが評価を見取る上でも重要です。「生徒観」は目の前の生徒を思い浮かべながら考えますが、時には、check (東京書籍) などの生徒分析のデータを参考にすることも有効です。「価値観」は指導者がその教材のねらいとなる道徳的価値について理解を深め明確な考えをもつことが肝要です。そして、この「生徒観」「価値観」を基に、発問や話し合いの場面などが工夫された展開を取り入れながら、「教材観」を構築していきます。この三つの要素が授業づくりに不可欠であり、指導案に記述される所です。

### 「ネット将棋」のあらすじ

僕はネット将棋で負けそうになるといきなりログアウトしネット将棋を楽しみずにいる。気分や感情に支配されて不誠実に振る舞っている。僕と対照的に、誠実な態度でネット将棋を楽しみ、将棋の実力を伸ばす敏和。そうした折、智子や明子と話している敏和の「自ら『負けました。』『目には見えない相手とどう向き合うかで、自分が試されてる気がして』という言葉聞いて3人が笑い合う中で、僕は1人だけ笑えなかった。

## 教材「ネット将棋」の授業を通して

### 生徒観

#### 子供たちの課題

自己肯定感に関しては多様な考え方がありますが、社会学者の加藤諦三氏の著書『自信と劣等感の心理学』(大和書房)には次のように書かれています。

「自分の弱点を認めることはだれにとっても難しい。視野を広げられれば自然と自分の弱点を受け入れることができるようになる。」「弱点を受け入れることで、さらに自信がついてくる。」「劣等感はある自分の弱点を恥部と思わせる。人はその恥部を人に見せないために、『勝ち気の姿勢』をとる。あるいは、逆に人を避ける。本当に強い姿勢とは、『ありがとう』という感謝の言葉を言えること。『ごめんさい』を言えることである。」

自分の弱さを見せまいと苦しみ、時には不本意な結果を誠実に受け止めずに、他者や環境のせいにしてしまう生徒がいます。

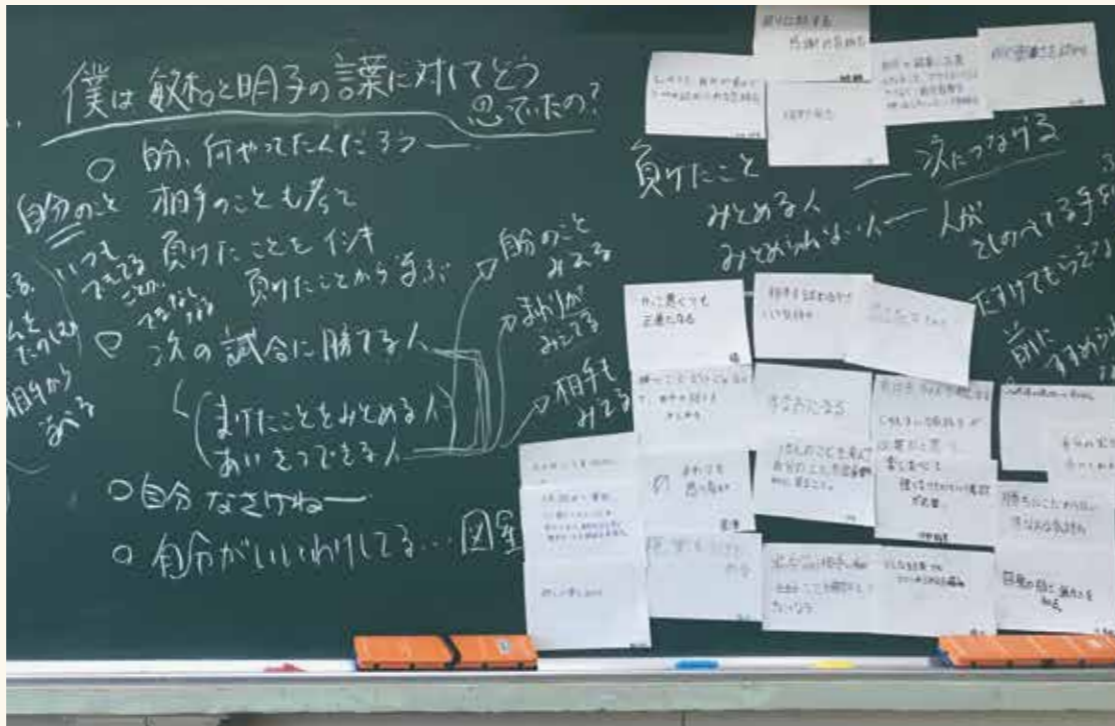
主人公の僕にある道徳的課題にしっかり向き合わせるとともに、生徒一人一人の視野を広げ、弱点を素直に受け入れる心情を育むことを通して、自己肯定感を高めることができる教材です。

### 教材観

#### 多面的・多角的に考える学習

主人公の心情を問うだけでなく、敏和や明子の立場で考える発問を取り入れることによって、道徳的問題を多面的に捉えることができます。

授業の終盤には3～4人のグループで話し合い、自分が「私に必要なことはこれだ」と思った言葉を一言で紙に書き、黒板に貼るという活動を取り入れます。数人の生徒を指名し、その言葉の意味を説明させます。その発表を聞く中で各自が思考を深め、最後にワークシートに今日の授業で気づいたことについて記述します。



### 価値観

#### 授業のねらいに繋がる道徳的価値

この教材のねらいとなる内容項目はA-(1)「自主、自律、自由と責任」です。授業のねらいは、一教師の私的な人生の価値観が色濃く出たねらいであれば偏った考え方になってしまいます。そのため、教材の特性と生徒観を考慮しながら、学習指導要領解説から授業のねらいとなる語句や文章を探してみましょう。「誠実に実行」とは、さすがしい明るい心で、私利私欲を交えずに真心を込めて具体的な行為として行うことである。「失敗も含めて自己の責任において結果を受け止めることができるようになる。」などが学習指導要領解説等の記述として見られます。道徳的価値を指導者がどのように考えるのか、学習指導要領解説等の記述を基に明確にすることが必須です。

#### 授業で心がけたいこと

自己肯定感を高めることは「自分を見つめ、視野を広げること」。自身の弱さも受け入れ、自信を高めていく評価と指導を目指していくことが大切です。



### 教材観

#### 自己を見つめる学習

授業では生徒が自分の内面を見つめ、自分自身がふたを開けていた内面や、今まで気づかなかった内面に向き合い、人間としての生き方について考えを深めていきます。そのためには、自問と内省ができる発問が大切です。「あなただったらどうしますか。」という発問が最適のように思えますが、思春期の生徒にとって、直接的な発問に対して素直に自分の心を表現することは難しいかもしれません。そのため、読み物教材では、登場人物に自分を重ね合わせて考えていきます。

例えば、中心発問は「敏和のツッコミに明子と智子は笑ったが、僕が笑えなかったのはどうしてだろう。」とします。中心発問以外に「敏和や明子が『負けを受け入れる』ことができるようになったのは、どんなことに気がついたからだろう。」や「みんなと一緒に笑え、『負けを受け止められる』ようになるには、僕自身に必要なことは何だろう。」と問い返し、道徳的価値に迫っていきます。

## 終末

### ワークシート(道徳ノート)

授業の終末に「自分自身を見つめて気づいたこと」「他の人の考えを聞いて分かったこと」を記入させます。そこから「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめている」のか、「道徳的諸価値についての理解を基に、多面的・多角的に考えている」のかなどを見取ります。また、学期ごとや前後期ごとに生徒が自分のワークシートを振り返り、**自分自身の道徳性の成長に気づかせる時間**をつくりましょう。道徳性を育む意義を生徒自身が理解することは「主体的な学びとなり、**大きく評価**の見取りに繋がります。

#### ワークシート(道徳ノート)

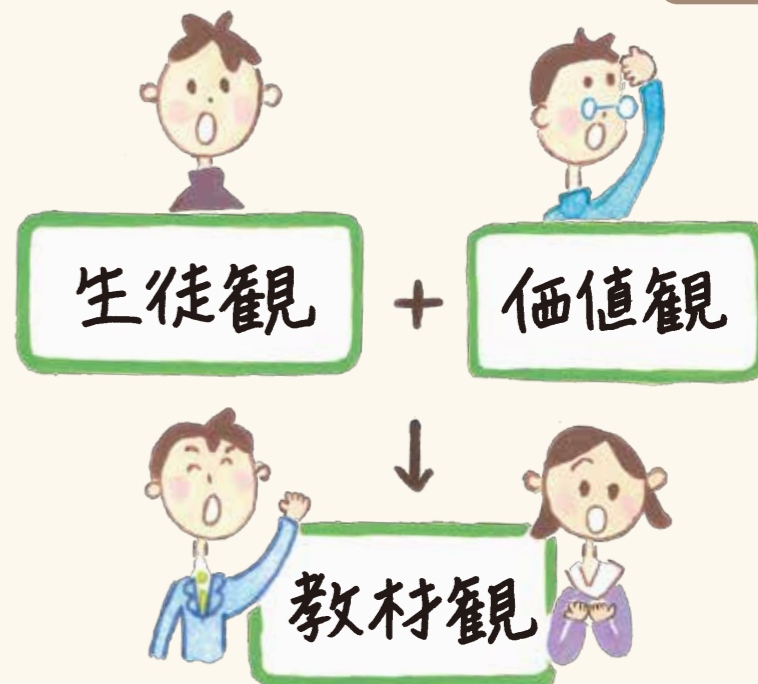
年 組 名 前

- 自分自身を見つめて気づいたこと
- 他の人の考えを聞いて分かったこと
- 今日の授業の自己評価 (○をつける)

・自分自身を見つめ気づいた	4	3	2	1
・友達の発表から発見があった	4	3	2	1
・生き方について深く考えた	4	3	2	1

### 授業中の見取り(発言や表情)

記述が苦手な生徒もいるので、授業中の発言や表情なども見取ることが必要です。短い語句でもよいので全員の生徒の発言を板書し、授業後写真で記録を残すことや、T Tなど複数の先生が授業に関わり、生徒を観察することも考えられます。



# グループ活動を 取り入れた 問題解決的な学習

道徳科で「主体的・対話的で深い学び」を実現していくためには、グループ活動による問題解決的な学習が必要になります。どのように実践するのが効果的なのか、見ていきましょう。



明星大学特任教授  
小林幹夫

## はじめに

新学習指導要領では、学習指導要領の枠組みの見直しやカリキュラムマネジメントの実現、主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）の視点からの授業改善など、学習内容と方法の両方を重視し、児童の学びの質を高めていくことが求められている。

道徳教育においては、他者とともによりよく生きるための基盤となる道徳性を育むため、答えが一つでない道徳的な問題を一人一人の児童が自分自身の問題と捉え、向き合う「考え、議論する道徳」を実現することが、「主体的・対話的で深い学び」を実現することになると考えられる。

「考え、議論する道徳への転換」に向けて、指導方法の一つとして「問題解決的な学習」の活用も有効である。

## 道徳科における「問題」は、生き方の「問題」

道徳科における問題解決的な学習は、ねらいとする道徳的諸価値について自己を見つめ、これからの生き方に生かしていくことを見通しながら、実現するための問題を見つけ、どうしてそのような問題が生まれるのかを調べたり、他者の見方や考え、感じ方を確かめたりと、物事を多面的・多角的に考えながら問題解決に向けて話し合うことである。つまり、道徳的価値に根差した問題であり、単なる日常生活や社会的事象の問題ではなく、自己の生き方の問題（課題）として受け止めることである。

- 道徳的な問題例としては、
- 1 道徳的諸価値が実現されていないことに起因する問題
  - 2 道徳的諸価値についての理解が不十分又は誤解していることから生じる問題
  - 3 道徳的諸価値のことは理解しているが、それを実現しようとする自分とそうできない自分との葛藤から生じる問題
  - 4 複数の道徳的諸価値のあいだの対立から生じる問題

## 多面的・多角的に考える

私たちが社会生活を営む中、道徳的な行為として大切なこと、望ましいことと分かっていても、周囲の状況や相手との関わり、さらには自分だけの問題だけでなく、自分以外の対象にどのような影響を与えるかなどについても考えながら判断し、行動しなければならぬことが多い。

例えば、「公正、公平、社会正義」を考える際、「好き嫌いにとらわれない

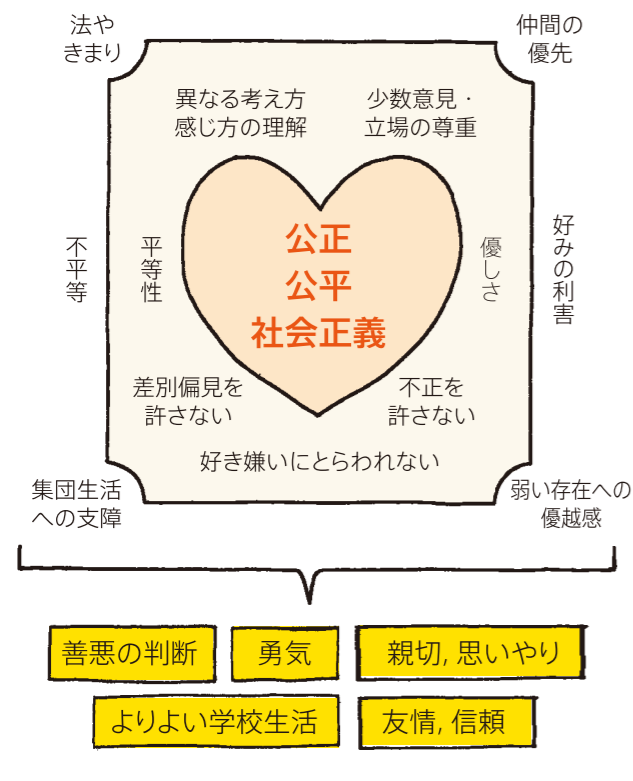
い」、「不正を許さない」、「異なる考えや感じ方の尊重」など、誰に対しても公正、公平な態度で接することの道徳的価値の大切さは理解できる。

しかし、その一方で、実現に向けて「法やきまり」を根拠にして考え判断する場合や、「集団生活への支障」「不平等」など、他への影響を考慮し判断する場合などもある。

あるいは「仲間の優先」「好みの利害」など、人間としての弱さから実現することが難しいという場面もある。

このような様々な状況の中で、どの

## 多面的・多角的 公正、公平、社会正義を捉える視点



## 理由、根拠を大切にしたい話し合い活動

道徳の授業は、道徳的価値を含んだ教材を基に、児童が自分の体験や見方、考え、感じ方を交えながら、話し合いを深めていく学習が多く行われている。その過程を通して、他者との相違点に気づき、自分の考えの確認、修正、補完を繰り返しながら自分の問題を明確にし、答えを導き出していく。

話し合いを深めるためには、児童一人一人が考え、見つめる時間を確保することが大切である。さらに、「なぜそう思ったのか。感じたのか」など、心が動いた理由や根拠は一人一人微妙に違つことを理解しながら、他者はその思いを感じながら聞き合い、問題場面における道徳的価値の意味を考えさせることが大切である。その際、ペアワークや少人数グループでの話し合い、そして学級全体での話し合いなどの形態を工夫しながら、再度、自分自身でじっくり振り返り考える場面を位

## ● 子供たちの望ましい様相



- 1 自分の考えを明確にし、表現している。
- 2 受容的な態度で相手の考えを理解している。
- 3 話し合いの論点を明確にし、多面的・多角的に考え、交流している。
- 4 他者との考え方の相違点に気づき、自分の考えを再構築している。
- 5 ねらいとする道徳的価値の理解を基に、自分を振り返っている。

置つけていくことが深い学びにつながる。一部の児童にとどまることなく、全体への共通問題としながら、児童から多様な見方、考え、感じ方を引き出し、整理し、振り返るという授業展開が必要と考える。

# 具体的な教材による授業展開例



転校生がやってきた

名前

※考えてみましょう

「いじめが起きる原因は、みんなが声を出し合えず、いじめを許さず、誰に対しても差別や偏見をもつことなく、公正公平に接し、正義の実現に努めようとする態度を育てる。」

① 主題名…「公正、公平、正義」  
〔学習指導要領（C公正、公平、社会正義）〕

② 教材名…「転校生がやってきた」  
〔新しい道徳〕5年 東京書籍

③ ねらい…いじめを許さず、誰に対しても差別や偏見をもつことなく、公正公平に接し、正義の実現に努めようとする態度を育てる。

## ④ いじめ教材の取り扱い

いじめを題材として扱う場合、学級内のいじめの状況や今後の人間関係への影響などを考えながら、指導していく必要がある。いじめは、「被害者」「加害者」の二者関係だけでなく、「観衆」「傍観者」の4層構造により成り立っていることを理解し、学級全体でいじめを許さないという雰囲気醸成し、いじめを抑止できる安心した学級づくりが求められる。

## ⑤ 教材の活用と授業構成

① いじめを受けている「ぼく」の気持ちに共感させる。  
② いじめを発見した「勇馬さん」が傍観者でいられず、学級みんなにいじめをなくすよう話しかける。

③ 「勇馬さん」の話をきつかけに、みんなも声を出し合い善悪について話し合える雰囲気をつくり上げた。その結果、いじめを受けていた「ぼく」も元気を取り戻すことができた。  
また、補助発問を活用し「勇馬さん」の勇氣ある行動にも着目させる。

## ⑥ 指導の工夫

いじめは、子供たちの身近な問題であり、多様な考え方や感じ方を出しやすいため、多様な互いに交流する機会と時間を確保し、多様な考え方や感じ方に触れながら自己を見つめなおし、今後の豊かな人間関係の構築に発展させていきたいと考える。  
展開の後段では、  
① ワークシートを活用して自分の考えを明確にする。  
② 自分の考えを伝えながらグループで交流する。  
③ 各グループで話題になったことを中心に全体交流を行い、全体の問題として考える。  
また、いじめの背景にあるいじめ側の心理についても考えさせていくようにする。



友だちの考えを聞きながら、今日の学習を考えたこと、感じたことを振り返りました。



## 指導上の留意点、評価（★）

- ・ねらいとする価値への導入を図る。
- ・文部科学省のいじめに関する調査結果を活用する。



- ・教師の範読
- ・いじめを受けたぼくの辛い気持ちを十分理解できるようにする。
- ・いじめは理由も分からず突然起きたことに気づかせる。
- ★いじめを受ける辛さについて理解することができたか。
- ・勇馬君もいじめを受けたが、友達の支えで乗り越えることができた経験に気づかせる。
- ・いじめを受けている人を黙って見てられない勇馬君の勇氣に共感させる。
- ・傍観者でなく仲裁者となる勇氣に気づかせる。また、話したことによりいじめを受けるかもしれない不安をもつ気持ちもあることに気づかせる。

- ★いじめを発見したら、勇氣をもってやめさせることの大切さが理解できたか。
- ・勇馬君の勇氣や仲間の支えに元気を取り戻したぼくの気持ちを理解する。
- ・周りの人も声を出し始めた行動に着目させる。
- ★いじめをなくし、みんなできっといじめをなくすという気持ちに共感できたか。

- ・ワークシートの活用
- ・いじめを起こす心理的要因に触れるとともに、いじめを起こさない言動について考えさせる。
- ・個人で考えたあと、小グループで話し合い、全体交流につなげていく。
- ★いじめを起こさないために、相手を尊重することの大切さが理解できたか。

- ・ワークシートの活用



## 学習活動（主な発問と予想される児童の反応）

1. いじめに関する調査結果を見て、話し合う。  
○このいじめの調査結果を見て、どんなことを思うか。



2. 「転校生がやってきた」を読んで話し合う。  
(1) 仲間はずれにされたり、無視されたり、靴を隠されたり、いじめを受けたぼくはどんな気持ちだろうか。  
・何でこんなことをするんだ。  
・何も悪いことをしていないのに。  
・もう学校に行きたくない。  
(2) 勇馬君は、どんな思いからいじめについて学級のみんなに話しかけたのだろうか。  
・いじめは絶対してはいけない。  
・友達がかわいそう。  
・このままでは、みんながいじめにあってしまう。

### 補助発問

- 立ち上がってみんなに話しかけた勇馬君をどう思うか。



- ・勇氣がある。
  - ・良いこと悪いことをはっきり言えるのは、すごい。
- (3) ぼくが元気を取り戻すことができたのは、どうしてだろうか。  
・勇馬君がぼくの気持ちを分かって助けてくれた。  
・学級のみんなもいじめはいけないと声をあげてくれた。  
・安心して学校に行ける。

3. 自分の生活を振り返る。  
・いじめが起きてしまうのはどうしてだろうか。また、いじめをなくすためにどのようにしたらよいのだろうか。  
・自分の好き嫌いできてしまう。  
・自分より弱い人に命令してしまう。  
・相手が嫌がることはしない。  
・相手の良さを認め合う。



4. 今日の学習で考えたこと・感じたことを振り返る。

導入

展開

終末





## i-checkとは?

i-checkとは、子供たちの未来を支える先生がたに、学級経営や児童・生徒理解に役立つ情報をご提供する目的で設計した、総合質問紙調査です。日本の子供が低いと言われている「自己肯定感」や、喫緊の課題である「いじめのサイン」など、17のカテゴリーで子供の個性や今の心のあり様を立体的に描き出しています。調査結果をご活用いただくことで、子供たちの学校生活がより生き生きと、笑顔あふれるものになるよう願っています。

i-checkは、学級経営・子供理解のための調査であり、一人一人の道徳的資質を評価するための調査ではありません。しかしながら、i-checkの一部の質問は、その子の、あるいは集団の道徳的成長を、自己評価といえども可視化することができる内容を含んでおります。そこで、本冊子の特集では、i-checkのデータから得られた現在の子供たちの姿を考察するとともに、道徳科授業のあり方を考える取り組みを紹介しました。



[https://www.tokyo-shoseki.co.jp/academic/n\\_ichack.html](https://www.tokyo-shoseki.co.jp/academic/n_ichack.html)



本社 〒114-8524 東京都北区堀船 2-17-1 Tel : 03-5390-7354 (道徳編集部) Fax : 03-5390-6014  
支社・出張所 札幌 011-562-5721 仙台 022-297-2666 東京 03-5390-7467 金沢 076-222-7581 名古屋 052-939-2722  
大阪 06-6397-1350 広島 082-568-2577 福岡 092-771-1536 鹿児島 099-213-1770 那覇 098-834-8084  
ホームページ <https://www.tokyo-shoseki.co.jp/> 教育資料データベース 東書Eネット <https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/>